

本の紹介文を書きました

読書月間が始まり、多読賞を目指して意欲的に本を読む子供たちの姿が見られます。また、市図書館から借りた本も教室の後ろに置いてあり、子供たちは「この本知っている」など、話しながら本を手にとっています。先日、国語科の時間に本の紹介文を書きました。

<本の紹介文より>



「ちやのまのおぎぶとん」

ちやのまのおぎぶとんは、みんなのおしりをささえるしごとをしています。ある日、ごはんやおかずがこぼれてぎぶとんがよごれてしまつて、かぞくにきれいにしてもらいます。

女の子がぎぶとんの上でとびはねていたところがたのしそうでした。ぎぶとんにかおがついているわけがないのに、かおがついていたのがおもしろかったです。

「キャベツくん」

キャベツくんが、ブタやまさんに、「ぼくをたべると、こうなる。」と、いろいろないきものがじぶんをたべるとどうなるかおしえているおはなしです。

ぼくは、いろんなものがキャベツになつて空にうかんでいるところがおもしろかったです。とくに、ゴリラがキャベツになつたところがおもしろかったです。

「もつとひつじばん」

ひつじのばんやさんが、いろんなどうぶつのためにばんをつくるおはなしです。さいごには、おいしそうなチョコひつじばんがでてきます。

ぼくは、ひつじがばんやさんをしていたので、びっくりしました。ひつじがばんやさんをして、おきやくさんがよろこんでいたのでよかったです。ぼくも、チョコひつじばんがたべてみたいです。

「ともだちひきとりや」

いのししがいたちと、いいあらそいをしていたので、おおかみときつねが「ともだちひきとりや」になって、いのししといたちをなかなかおしらせるおはなしです。

わたしは、いのししに、いたちがくさいおならをはなにめがけてだしたところがおもしろかったです。さいごに、いのししといたちがなかなかおしをしたのでよかったです。

算数科は「ひきざん」の学習に入りました

繰り下がりのある引き算の学習に入りました。足し算と同じように「10のまとまり」がポイントになります。計算の仕方を学習した後、プリント等で繰り返し練習していきたいと思います。